

小学3年 国語 「まいごのかぎ」

ねらい

不思議なことが起こる物語を読み、登場人物の気持ちの変化で伝えたいことを見つけることができる。

学習展開（1時間）

①授業で学習した「まいごのかぎ」が、不思議なことが起こる話であったこと、登場人物の気持ちの変化が変化していったことをおさえ、本時では、不思議なことが起こる物語を読むことという見通しを持つ。

<ふしぎなことがおこる物語文を読む>

②児童は、不思議なことが起こる4冊の物語について、司書からブックトークを聞く。

『まほうのゆうびんポスト』『ふみきりペンギン』

『かがみのなかのボクとぼく』『ココロ屋』

③4冊の中から、読んでみたい本を1冊決める。

（本に限りがあるので、人数の調整を行う）

④本を読む前に、読んだ後に登場人物の気持ちの変化した中から自分が伝えたいことを交流し合うと伝えておく。自分が選んだ本を10分間読む。

⑤意見を交流し合う。まだ、読みたい人は、読む。

⑥ふりかえりをする。

2



3



4

5



指導のポイント

- ・今、学習していることを踏まえ、本時では、不思議なことが起こる物語を読むというめあてを全員で共有した。
- ・司書のブックトークでは、続きが気になるように本を紹介した。簡単な情報を担任が板書した。
- ・本の数に限りがあるので、人数調整を行った。
- ・ただ本を読むわけではなく、読む前に、自分の意見をアウトプットして交流することを伝えることで、読む意識も高まった。
- ・交流する場面では、教師も司書も児童の話し合いに参加し、学び合った。
- ・ワークシートは、読んだ後の感想を3段階で塗れたり、今回授業で扱わなかった本も示されたり、ふりかえりが書けるようになったりしていた。

学校図書館との関わり

- ・不思議なことが起こる物語を学校司書にお願いし、近隣の図書館からも集めてもらった。
- ・ワークシートを学校司書に作成してもらった。
- ・本の冊数が確保できる4冊を中心に、ブックトークをしてもらった。
- ・児童の交流の場面では、学校司書も入り、話し合いに参加してもらった。